

越谷市内三例目の『高低測量几号』

秦野 秀明

越谷市内には、筆者が再発見した「西方村字行人塚大相模不動道標」（現在は大聖寺（大相模不動尊）東門外の路傍に移転）と、「大澤町字天神前管社華表」（現在は、大沢香取神社に移転）の二例の「高低測量几号（几号水準点）」が確認されていた。この二例は、明治九年（一八七六）七月二十七日、内務省地理寮により現在とは異なる水準点の様式が布達された後に、ほぼ奥州道中に沿って東京塩竈間の高低測量（水準測量）が行なわれた際に設置されたものである。

平成二十二年（二〇一〇）十二月八日、太田繁信氏により再発見され飯島仁氏により報告された、春日部市大增新田「水神社」境内に存在する測量標石は、一辺15 cm、高さ（地上高）43 cmの花崗岩の角柱で、上面には球文体があり、側面に刻印された「几号」を正面とすると、時計周りに「第五號」、「新方領」、「基標」の刻字があつた。この形式の測量標石は、様々な測量標石に関する文献や資料には未記載の形式であり、飯島氏は「新方領」の刻字の存在から、この地域一帯で行われた「新方領耕地整理事業」（大正五年（一九一六）三月二十七日竣工）の際に設置されたものであると推測した。

筆者は飯島氏の報告を元に、他の同種の測量標石を求めて探索した結果、平成二十二年（二〇一〇）十二月十九日、越谷市大杉四五九「大杉新田稻荷神社」境内に、一辺15 cm、高さ（地上高）35 cmの花崗岩の角柱で、上面には球文体があり、側面に刻印された「几号」を正面とすると、時計周りに「第九號」、「新方領」、「基標」の刻字された測量標石を再発見した。

さらに十九日以降、春日部市内において、「第二號」、「第三號」、「第七號」の刻字された測量標石も再発見した。



越谷市大杉459「大杉新田稲荷神社」
「几号」付きの「測量標石」

上面に「球文体」、一辺15cm、高さ(地上高)35cm
「几号」を正面とすると、時計周りに「第九號」、「新方領」、「基標」の刻字
「几号(不)」の横棒6.5cm、縦棒7.0cm、横棒までの地上高27cm
(北北西より望む)

越谷市大杉459「大杉新田稲荷神社」
「几号」付きの「測量標石」

上面に「球文体」、一辺15cm、高さ(地上高)35cm
「几号」を正面とすると、時計周りに「第九號」、「新方領」、「基標」の刻字
背後に「一級水準点(埼玉県)」
(北北東より望む)

1. 「第一號」：未発見
2. 「第二號」：春日部市上大增新田445「香取神社」：秦野秀明 再発見
3. 「第三號」：春日部市薄谷140「香取神社」：秦野秀明 再発見
4. 「第四號」：未発見
5. 「第五號」：春日部市増田新田1「水神社」：太田繁信氏 再発見
6. 「第六號」：未発見
7. 「第七號」：春日部市大場432「新方領耕地整理碑」北西隣：秦野秀明 再発見
8. 「第八號」：未発見
9. 「第九號」：越谷市大杉459「大杉新田稲荷神社」：秦野秀明 再発見
10. 「第十號」以降：？